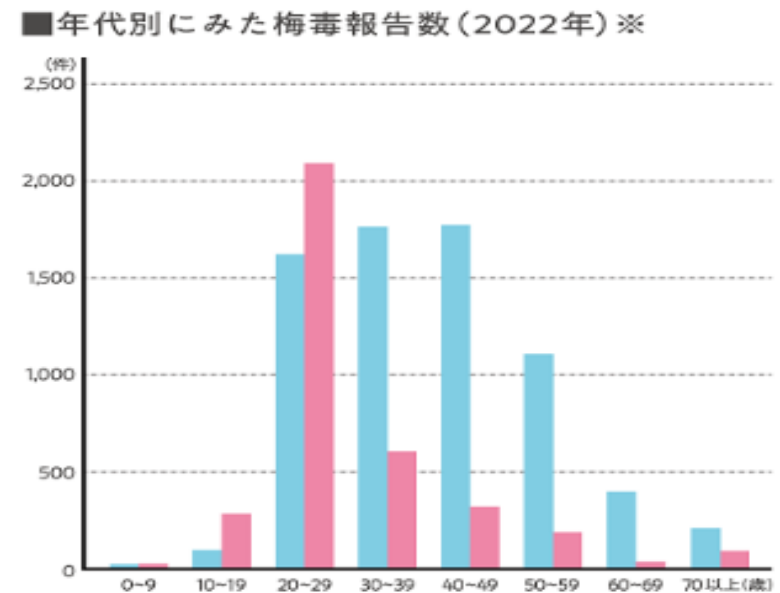
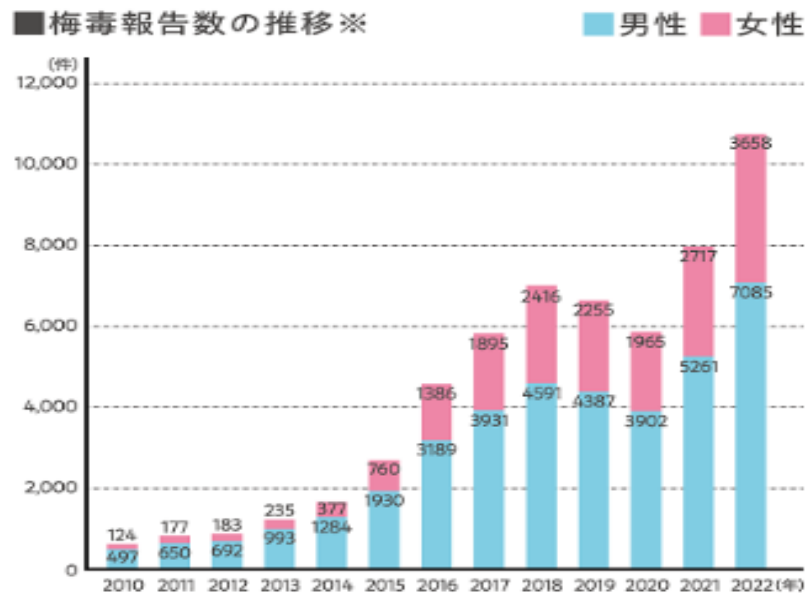


梅毒の発生状況について

男性20代～50代、女性は20代が突出して増えています。

日本では1948年から梅毒の発生について報告の制度*がありますが、報告数は、年間約11,000人が報告された1967年以降、減少していました。ところが2011年頃から報告数は再び増加傾向となりました。2019年から2020年に一旦減少したものの、2021年以降大きく増加しています。2022年には10月下旬の時点で10,000例を超える報告があり、注意が必要です。

*1999年に制度の変更がありました。



※2021年は、第1～52週2022年10月8日時点集計値（暫定値）、2022年は第1～44週2022年11月9日時点集計値の報告を対象。

出典 厚生労働省より

日本の発生動向について①

- ✓ 1990年代から、**HIV感染者・エイズ患者の新規報告数**の合計は増加傾向にあったが、2008年以降は横ばい傾向に転じ、2016年以降2022年まで6年連続で減少したが、**2023年（速報値）は増加**に転じた。
- ✓ 2023年の**新規HIV感染者報告数（速報値）**は、2022年より増加しており6年連続での減少から、増加に転じた。要因としては、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた保健所等での検査件数が回復したことが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
- ✓ また、2023年の**新規エイズ患者報告数（速報値）**の増加は、新型コロナウイルス感染症の流行以降、保健所等での検査件数が減少していたことが影響している可能性が否定できない点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。

■新規HIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移（出典：厚生労働省エイズ動向委員会）

※動向の定義： HIV感染者 = エイズ発症前に診断、エイズ患者 = エイズ発症後に診断

